

俳人・金子兜太氏の記憶

熊谷市立江南文化財センター 山下祐樹

金子兜太文学の継承

秩父・皆野出身、熊谷在住の日本を代表する俳人で熊谷市名誉市民の金子兜太氏が2018年2月20日に亡くなった。98歳だった。「社会性俳句」を提唱し、俳誌「海程」を創刊、戦後の俳句改革運動をリードした。現代俳句協会会長、文化功労者、日本芸術院会員を歴任した。兜太氏の死は筆者に対して深い悲しみと大きな衝撃を与えた。



金子兜太氏と筆者（左）2017年12月

2016年、熊谷市は市誕生10周年記念事業で、兜太氏に合併旧4市町の風景句の作句を依頼し、自らの揮毫で句碑が建立された。私はその句碑とともに設置された解説文の執筆を担当した。これを契機として私は共著として『熊谷ルネッサンス―熊谷の歴史と文化遺産を結ぶ「道」―金子兜太「熊谷の俳句」』を2017年11月に出版し、熊谷の歴史や自然風土についての対談を掲載した。

同年12月、ご自宅で面会した際には「私は俳句で、君は歴史で熊谷を発信する対談をやるう」と元気に話されていた。これが私への遺言となった。新たな対談は叶わなかったが、ご教示頂いたことを通じて、文化や郷土に対する先生の信念を受け継いでいきたい。そう考えている。

2018年7月15日、熊谷市の名勝「星溪園」で、本年2月に亡くなった俳人・金子兜太氏の追悼行事として「熊谷の俳諧研究会―熊谷の句碑と金子兜太文学―」を企画開催した。

私が担当した兜太氏の俳句論と足跡を解説する講演に引き続き、俳人・熊谷市俳句連盟名誉会長の天貝弘人氏と「俳諧と新たな俳句の対流について」を主題に対談を行った。会場には兜太氏が主宰を務めた俳誌「海程」の同人や、俳句愛好者、兜太俳句のファンが訪れ、兜太氏の俳句に想いを馳せた。新たな時代を開拓した兜太氏の遺志や方法をいかに継承していくか想いを共有する機会になった。

「熊谷の俳諧研究会」の開催



大里の根岸家長屋門を前にして

『熊谷句碑物語』の完成

兜太氏の没後、私は追悼の意を込めて市内にある句碑を集成する資料を作りた」と考え、兜太句碑をはじめ市内各所を巡り調査・執筆を進めた。そして、2018年8月19日にリーフレット『熊谷句碑物語―熊谷の歴史を彩る俳句と句碑をめぐる旅―』を発行することができた。現在、熊谷市内には兜太氏の俳句を刻んだ句碑が7基所在している。「熊谷の俳句」の句碑のほか、常光院や龍泉寺、埼玉県立熊谷高等学校に建立されている。

江戸時代を代表する俳人、松尾芭蕉の句碑もあり、後の時代の熊谷人が芭蕉俳句を顕彰する「芭蕉句碑」を複数建立した。これらに加えて、近現代における熊谷の俳人の活躍を明らかにする句碑や、著名俳人が熊谷を訪れた足跡を示す句碑が存在している。こうした句碑の再認識とともに熊谷における俳諧文化の継承は、兜太文学の可能性を次世代につなげるものと信じている。そして「国民詩人」ともいふべき兜太氏の記憶は、熊谷の歴史に光を与え続けることだろう。



中央公園の句碑